

第1回意見交換会の結果について

徳山ダムの弾力的な運用を考える意見交換会

検討会開催に先立ち、揖斐川に係る漁業関係者の皆様から意見をお聞きするため平成20年3月25日に「徳山ダムの弾力的な運用を考える意見交換会」を開催し、様々なご意見を頂きました。



ご意見を述べられる漁業組合の方々



開催状況



助言されるアドバイザーの方々

徳山ダムの弾力的な運用を考える意見交換会

項目	主な意見
アユ関連	夏場に一定の放流をすると、川の水、低層の藻が腐り、垢(あか)のようなドロドロになり、アユも生息できない。詳細な調査をお願いしたい。
シジミ関連	万石の水の量ではなく、塩分濃度の状況により、水を流して欲しい。
	干潮時の塩分濃度等を定点観測して報告書が欲しい。 木曾川下流河川事務所は、過去のデータもそろっていることから、それと比較して、常時その塩分濃度を確保してほしい。
	シジミが生息する正しい環境、棲める環境を確保してほしい。
	シジミの漁場での定期的な観測ではなくて、連続観測が必要。
	シジミにとって塩分濃度は非常に大切で、特に産卵時期が非常に大切なので、それも意識して調査を行って欲しい。
	放流の時期がわかれば、そのときに漁をする上の目安になる。また、何かおかしいなというような部分もある可能性があるため、計画的なものも含めて、直前に、放流される量的なものを提供して欲しい。
	流量が変動すると汽水域の塩分の変動がどう変わるのか。また、大潮、小潮などの潮周りと塩分や水温の関係、そういうデータが必要。
その他	何をしたいのか、何をはっきりしたいのか、何が目的なのかを明確にして、関係者の合意をある程度得て試験放流を実施する必要がある。
	上流のヤマメからアユ、シジミ、ノリ、それぞれ違った生き物を対象にしているので、水を流すに関しても、それぞれ流してほしいとき、流してほしくないときが違うため、漁業者の方がどんどん言ってもらって、お互いの事情を分かり合うことが非常に重要である。
	生物に関しては、データ、シミュレーション結果通りにならないことが多いため、繰り返し実験をすることが必要である。